

ふくしま女性フォーラム・1999年度  
県立高校の共学化を考える分科会報告書

## 4. おわりに

---

[表紙](#) [前のページ](#) [次のページ](#)

---

今回のわたしたちの取り組みは、問題への切り込みの鋭さという点でも、またジェンダーフリー教育の内実に迫るという点でも、まだまだ不十分な点が多かったものだったと、1年あまりを振り返って思います。

しかし、福島県の県立高校共学化自体、まだまだ先があります。今後もどのように共学化が行なわれていくか、そして共学化が行なわれた学校の中でどのような成果が上がってくるかに注目していきたいと思います。

この報告書の中でも繰り返し述べられていますが、共学という形式だけでは教育における「ジェンダーの衡平」は達成されないでしょう。共学化はあくまでも一つの手段であり、通過点に過ぎません。共学化されたあとの中身を問う姿勢を持っていきたいと思います。

そしてもちろん、ことは福島県だけのことではありません。戦後直後に旧制の中学校・高等女学校が共学になったのが「第一の波」、1970年代の共学化の進行が「第二の波」とすれば、今後おそらく全公立高校を対象にした共学化の「第三の波」が起こってくるように思います。その震源地である福島県の動向には、おそらくいまだ別学校を多く残している県のいろんな立場の人たちが注目しているはずです。そのことも忘れないでいきたいと思ます。

---

[表紙](#) [前のページ](#) [次のページ](#)

---

[分科会報告一覧へ](#)  
[WFFのホームページへ](#)

---

Copyright (c) 2000, WFF. All rights reserved.

This page written by TAKAHASHI, June (june.takahashi@nifty.ne.jp)